



廣瀬 徳藏代表

愛知県 → ラオス

(株)プロツツア

三輪EVの導入で世界遺産の保全と公共交通インフラの整備に貢献



定時・定路線運行を担う14台の三輪EV。定員7人。後部はオープンで開放感がある



普及・実証事業で導入された三輪EV



バッテリー交換ステーション



三輪EV「Pecolo」とバッテリー交換ステーション



ルアンパバーンの車両基地

世界遺産の街、ラオス・ルアンパバーン。今年6月から世界遺産保全地区を含む街中をグリーンの三輪電動車（EV）が走り回っている。名前は「Pecolo（ペコロ）」。

脱着式のリチウムイオン電池を搭載し、フル充電で約40kmを走行する。定員はドライバーを含め7人。最高速度は約40km/時。EVバイクメーカーの（株）プロツツア（愛知県一宮市）がフィリピンのセブ工場で生産する製品だ。

ラオスは、都市部での自動車や二輪車の増加に伴う交通渋滞と大気汚染が深刻化しており、公共交通インフラの整備が緊急的な課題になっている。また、恵まれた水資源を背景に、水力発電エネルギーの有効活用

も大きな政策課題だ。プロツツアが2014年度に提案し、採択された「三輪電気自動車を活用した低公害型公共交通システムの普及・実証事業」は、こうしたラオスの開発課題に対応したもので、世界遺産の街を走る「Pecolo」はその鍵を握るEV車だ。

今回の事業で、現地に持ち込まれたPecoloは14台。バッテリー8個ずつ並列充電が可能なバッテリー交換ステーションも2基設置された。ルアンパバーンの世界遺産地区を巡る2路線（1周約6km）でPecoloの定時・定路線運行を先方の公共事業交通省運輸局と共同実施し、運行実績、収益、経費データなどを収集。技術・経済的優位性を実証していくとともに、利用者に対する広報活動な

ども取り組んでいく。

事業の推進にあたる同社の寺西亮課長によると、定時・定路線運行を続けていく中で、乗客の利用率やCO₂の削減率なども計測していく方向で、普及に向けた課題も抽出し、改善を図っていく。「フィリピン・セブ工場の電動三輪車生産能力は月産50台。フィリピン以外の世界中に広めていきたい。将来的にはラオスでも生産できるようにしたい。EV車は、静かで、きれいな世界遺産の街、ルアンパバーンの魅力をさらに高めていくはずだ」と寺西氏。EV普及を最優先課題に掲げるラオス政府の交通政策とも連動した事業だけに、今後の推移が注目される。

【外部人材参加：（株）アルメックVPI】